

176 過越しの食事(4)

ヨハネによる福音書 13 : 21~30、マタイ 26 : 20~25、マルコ 14 : 17~21、ルカ 22 : 21~23
 マタイによる福音書 26 : 26~30、マルコ 14 : 22~26、ルカ 22 : 15~20、I コリ 11 : 23~25

.....ニサンの月十四日、木曜日の日没後（→十五日の金曜日）の二階の大広間.....

▶裏切りの予告（ヨハネによる福音書 13 : 21~30）

21 イエスはこう話し終えると、心を騒がせ、断言された。

「はっきり言っておく。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」

→「心を騒がせ」は、ヨハネによる福音書の3聖句のみに登場するが、人間イエスの心の状態を記した21節以外は、神を信じ、「心を騒がせるな」という強いメッセージである。

【参考】心を騒がせ(るな)

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ヨハネによる福音書	13:21 イエスはこう話し終えると、心を騒がせ、断言された。「はっきり言っておく。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」	
S ヨハネによる福音書	14:1 「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。」	
S ヨハネによる福音書	14:27 わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。	

22 弟子たちは、だれについて言っておられるのか察しかねて、顔を見合わせた。

23 イエスのすぐ隣には、弟子たちの一人で、イエスの愛しておられた者（→使徒ヨハネ）が食事の席に着いていた。

→（回復訳）弟子の一人で、イエスの愛しておられた者が、イエスの胸に寄りかかっていた。

→（新改訳）弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席についていた。

【参考】最後の晩餐の席

夕方になると、イエスは十二人と一緒に食事の席※1に着かれた（マタイ 26 : 20）。

時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった（ルカ 22 : 14）。イエスに言われ、ヨハネとペトロは過越しの食事の準備係でした（ルカ 22 : 8）から、その役が即座にできる向き合った所（末席）に、そしてユダとイエスとヨハネは並んで席に着いたのです（ヨハネ 13 : 23~26）。

→⑥の席（位置）：ヨハネ ←→ ⑨〃：ペトロ

⑤の席（全体が一番よく見渡せる席）：イエス、④〃：ユダ

※1：食事専用の臥台「レクトゥス・トリクリナリス」（寝椅子）



通常、列席者の主賓は馬蹄型上辺にあたる臥台の一番左側(下図①)に座った（①の位置は「執政官の座」と呼ばれ、日本でいうところの上座である）。以下、上辺の左から右（②から③）、左辺の上から下（④から⑥）、右辺の上から下（⑦から⑨）、という順番になっていた。

招いた邸宅の主人は左辺の上部で、主賓と会話できる位置をとることが多かった。

24 シモン・ペトロはこの弟子（→使徒ヨハネ）に、だれについて言っておられるのかと尋ねるように合図した。

25 その弟子（→使徒ヨハネ）が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、それはだれのことですか」と（密かに）言うと、

26 イエスは、「**わたしがパン切れ**（→マツアの一片 NIV : this piece of bread /NKJV : a piece of bread）を**浸して与えるのがその人だ**」と（静かに）答えられた。

それから、パン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。

→（回復訳）イエスは答えられた、「わたしが**一口の食物**を浸して、渡す者がそれだ」。イエスは一口の食物を浸して、それをシモンの子、イスカリオテのユダに渡された。

→（真理発見訳）イエスは答えた。「わたしが**一口の食物**を浸して与える者がその者です」。そこで彼は一口の食物を浸して、それをシモンのイスカリオテのユダに与えた。

27 ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った。

そこで（すべてのことを支配している）イエスは、

「（ユダよ、あなたが）**しようとしていることを、今すぐ、しなさい**」と彼に言われた。

28 座に着いていた者はだれも、なぜユダにこう言われたのか分からなかった。

29 ある者は、ユダが金入れを預かっていたので、「（過越しの）祭りに必要な物を買いなさい」とか、貧しい人に何か施すようにと、イエスが言われたのだと思っていた。

30 ユダはパン切れを受け取ると、すぐ出て行った。（すでに）夜であった。

▶主の晩餐（マタイによる福音書 26 : 26～30）

26 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「**取って食べなさい。これはわたしの体である。**」

27 また、（第3－祝福と贖い－の）杯（→イエスの血潮、新しい契約を象徴）を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。

「**皆、この杯から飲みなさい。28 これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、（シナイ契約－出エジプト記 24 : 8－に代わる最も厳粛な新しい）契約の血**（→エレミヤ書 31 : 31～37）**である。29 言うておくが、わたしの父の国でああなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。**」

→過越し祭の祝いの一環として、小羊を犠牲としてささげて食べるのが常であった。イエスはパンとぶどう酒を用いて、自分の命が罪の赦しのために犠牲としてささげられることを示した。この犠牲の献げ物は、神と新しい民との間で結ばれる新しい契約の基盤となった。キリスト教徒たちは、主の晩餐や聖餐と呼ばれる儀式の中でこの出来事を祝う。

→過越しの食事には5つの杯がある。

①聖別の杯、②感謝（救い）の杯 →①、②は食事の前に飲む。

③祝福と贖いの杯、④完了の杯／⑤エリヤの杯：この杯はエリヤのためのもので、飲まない。

30 一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

【一言】四福音書が描くイエス像

マタイ for ユダヤ人：王なるイエス、マルコ for 外国人（ローマ）：僕イエス、ルカ for 異邦人：人間イエス、ヨハネ：神の子イエス



主の晩餐は旧約時代の過越祭に取って代わるものです。過越の小羊であるキリストが御自分の命をささげられたとき、過越は成就しました。

過越祭はエジプトにおける奴隷の身分からのイスラエルの民の解放を記念するものであったように、主の晩餐は罪の束縛という霊的エジプトからの解放を記念するものです。

家の鴨居と柱に塗られた過越しの小羊の血はその家の住民を死から守りました (出エジプト記 12 : 13)。

→出エジプト記 12 : 13

あなたたちのいる家に塗った血は、あなたたちのしるしとなる。血を見たならば、わたしはあなたたちを過ぎ越す。わたしがエジプトの国を撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない。

主の晩餐は、キリストの十字架上の死が私たちに「救い」や「赦し」をもたらし、罪に対する勝利を約束しています。

【参考】新約聖書で、「光」「夜」「闇」の3つが含まれる聖句

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 2 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ローマの信徒への手紙	13:12 夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。	
S テサロニケの信徒への手紙 I	5:5 あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。	

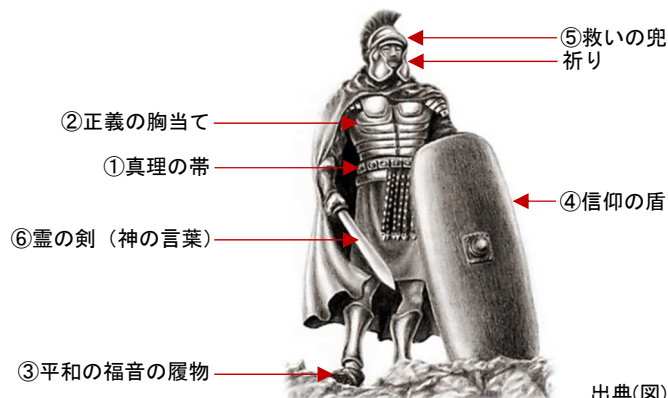
ローマ書 13 : 12 の「夜」は、イエス・キリストが再臨して統治する前の時代を指している。「日」は救いの日のことである (ローマ書 13 : 11)。「光」は「神」(ヨハネ 1 : 3~4)、「神の御言葉」(詩編 119 : 105)、神の真実を明らかにする人や物 (イザヤ 49 : 16) を表している。「闇」は滅亡や死、神に背く人々 (ヨハネ 8 : 12) を指している。

→エフェソの信徒への手紙 6 : 11~13

悪魔の策略に対抗して立つことができるように、**神の武具**を身に着けなさい。

わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、**神の武具**を身に着けなさい。

立って、①**真理**を帯として腰に締め、②**正義**を胸当てとして着け、③**平和の福音**を告げる準備を履物としなさい。なおその上に、④**信仰**を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。また、⑤**救い**を兜としてかぶり、⑥**霊の剣**、すなわち**神の言葉**を取りなさい。



出典(図): Bible Study Guides

帯は皮などで出来た幅が広い帯で、兵士を保護し、他の装備品を取り付けられるように仕立ててあった。神の真理がキリストに取り巻くように、帯は兵士の身体に巻いた。胸当ては、喉や心臓、肺を覆った。履物は底にスパイクを打ち付けた革製のサンダル、盾はキャンバス(帆布)や獣の皮で覆われた大きな長方形(120×76 cm)のもので、戦いの前には盾を水で浸し用いた。兜は金属で補強された革製、剣はローマ兵の持つ短く真つすぐなもので、神の言葉のように、防御よりはむしろ攻撃に用いられた(ヘブライ 4 : 12)。